



長房だより

～校訓「強く 正しく 美しく」～

令和8年3月19日
地域運営学校
八王子市立長房中学校
【特別号】

令和7年度卒業式

校長式辞

上田 太

桜の花が今まさに開かんとする中、本日ここにグループ校である長房小学校、船田小学校両校長先生方をはじめ、ご来賓の皆様、関係者の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、長房中学校第52回卒業式を行えますことを、すべての皆様へ心から御礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業誠におめでとうございます。また地域の皆様、関係者の皆様にも、多大なるご支援とご協力をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。学事報告でございますとおり、本日86名の生徒が中学校3年間の教育課程を修了し、ここに立派に本校を卒業いたしますことをご報告いたします。

在校生の皆さん、今卒業証書を受け取ったここにいる卒業生たちは、自分の進むべき道を考え、決断し、実行してきた人たちです。自分の強みも弱みも含め自分自身の現実に向かってしっかりと向き合いながら、やるべき時にやるべき手続きを取り、進めてきた先輩の姿、義務教育の完成形の姿です。今日、この姿を、しっかりと目に焼き付けておいてください。

さて、卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。

皆さんは学年3学級で3年間過ごしてきました。他の学年より少し仲間の数が多い学年でした。仲間が多いことはそれだけ大きな力を発揮でき、分かち合える人が多いということです。特に皆さんのまとまりの強さ、盛り上がりの大きさは特筆に値しました。数多くのエピソードの中の例にすぎませんが、修学旅行では、宿舎であり門跡寺院として格調高い聖護院のお坊さんの話に積極的に反応し、止観体験ではただ受け身ではなく積極的に参加した結果、気を良くしたお坊さんがその後のレクにも参加して下さりプラスアルファのお話を引き出しました。体育大会、合唱コンクールでは、クラス対抗でありながら、クラスを越え学年で一つの大きな円陣を組んだことも強く印象に残っています。

日々の授業では、自分の考えを発表したり、他の人と対話したりする姿がたいへんよく見られました。授業や行事を合わせて、こうした受け身でない学びの姿勢の中で皆さんは沢山の力を身に付けてきました。そしてその姿は後に続く下級生を引っ張りました。立派な最上級生の姿でその役割を果たしました。

世の中では、変化の激しい時代がすでに始まっています。それは未知のことばかりでなく、凄惨な過去の大戦争から学んだはずの平和や民主主義が今、過去と同じような道を辿ろうとしているとすら感じられるところにも見られます。

インターネットで世界とつながり、自給率が食料40%、エネルギーは15%にも満たないこの国が、この先も平和の裡（うち）に続いていくためには、人々の多様性を認めつつ、お互いの折り合いをつけながら、世界から敬意をもたれる国にならなければなりません。多様性という自由を保障するためには、責任が伴います。権利を保障するためには義務にも目を向ける必要があります。その責任や義務とは何か。それは良識ある人間であるということだと私は思います。良識ある人間とは知性を持ち、それを磨き続ける人です。

かつてギリシャの哲人ソクラテスは、自分は賢者（賢い人）だという人たちに対して次のように言ったそうです。「自分はもう何でも十分知っている、分かっていると思ひ込み、知性を重ね磨くということをしない人は、愚者（愚か者）である。私はまだまだ知らないことがたくさんある。知らないということを知っている。知ったような気になって実は知らない人よりその分だけ賢いのだ。」と。これが有名な「無知の知」という考え方です。

翻ってもう一度皆さんの姿に戻りますと、皆さんの中には自分で積極的に学ぼう、とする姿勢が随所に見られました。つまり皆さんは「賢者」になれるはずですが、どうか皆さん、考えることを止めないでください。思考停止は操られる人にこそなれど、決して本当の主権者にはなりません。知ろうとする営みを止めず、知性を磨き続けていきましょう。そして積極的に言動でアウトプットしてください。良質なアウトプットをしようと思えば、インプットも偏らず良質になるものです。その逆も然りです。

そうは言っても、このような困難で、先の予測が難しい課題が山積している世の中に、皆さんを送り出していくことには、正直不安がぬぐえません。しかし皆さんには、あと少しの猶予期間があります。成年として社会的責任を引き受けるまでに、あと3年あります。義務教育はここで終わりますが、これからは皆さんが皆さんの意思で社会を動かしていくための準備期間と考えて、世の中のことに目を向けながら過ごしてください。

そのうえで、自分の役割とは何か、常に問い続けてほしいと思います。今の自分のいる場所、置かれている立場で、何ができるのか、何をすべきなのか、そういうことを常に考えられる人であってほしいのです。

今日、一緒に卒業する仲間とは、またどこかで顔を合わせることがあるかもしれませんが、もう二度と会うことがない人もいるかもしれません。それが人生です。これまでの出会いと、これからの出会いを、「一期一会」としていつも大切にしながら、歩んでいってください。何年先かの私の見ることのできない時代に生きている皆さんが、きっと笑い合っただけで再会できる。そんな平和な社会であることを願って止みません。

これまで51回にわたって、この場所から長房中学校の卒業生がそれぞれの思いを胸に抱きながら巣立っていきました。その数は7949名にもなります。社会にはこれだけの長房中学校の卒業生がいます。今日から皆さんも、それに加わります。この学校を巣立った先輩たちとともに、社会の一員としてこの学校を見守ってください。何年たっても長房中学校は、皆さんの母校です。同じ卒業生の仲間としてお互いをどこかで意識しながら、この学校で生活し学んできたことを共通の誇りにして歩んでください。そして校歌にもうたわれている本校の校訓である「強く、正しく、美しく」を、それぞれの立場で未来の社会で示してほしいと願っています。また、将来この地域の一員として暮らす人がいてくれることも願っています。

改めて保護者の皆様。ここまでの15年間はお子様の一番近くに寄り添い見守ってこられたことと存じます。そして学校とともにお子さんの成長という同じ頂を目指しながら、教育活動にご理解とご協力を賜りました。改めて心から感謝申し上げます。今日は皆様にとっても義務教育の卒業式です。これからお子さんとの関わり方は少しずつ形を変えていくことと存じますが、社会を共に作っていく仲間として見ていただくと幸いです。

結びに、この学び舎で同じ時を過ごすことができたかけがえのない出会いに感謝し、すべての皆様のご健康とご多幸を願い、式辞といたします。



「送る言葉」

〇〇 〇〇

やわらかな春の日差しが校庭を包み、木々の芽吹きに新しい季節の訪れを感じる今日の良き日、卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。先輩方が入学されてから、三年という月日がたちました。今先輩方は、長房中学校で経験した嬉しかったこと、悲しかったことなど、様々な出来事をふり返っていることと思います。

二年前、私達がこの学校に入学した日、三年生の皆様は温かく私達を迎えてくださいました。新しい環境に不安を感じていた私達にとって、先輩方の朗々とした校歌は、とても心強いものでした。また同時に、先輩方に強い憧れを抱くようになりました。

私が初めて先輩と深く関わったのは委員会活動です。そこでは、まだ中学校の委員会に慣れていない私達を優しくリードしてくださいました。学校をより良くするために、見えないところでも懸命に仕事をこなしていくその姿は、いつも私達在校生の目標となっていました。

また部活動でも同様に、日々の練習に真剣に向き合い、目標に向かって努力をおしまない姿はとても印象的でした。時に厳しく、温かい指導をくださった先輩方からは、努力を続けることの大切さ、仲間を思いやる心を学ばせていただきました。

体育大会。仲間への熱い応援や、クラスを超えた巨大な円陣は、学校全体を大いに盛り上げてくださいました。学校の中心となって行事に参加する先輩方の真剣な姿に多くの人が感動したことと思います。

そして、秋の合唱コンクール。聴く人すべての心をつかんだその歌声に、最上級生として伝統を受け継ごうとする強い意志を、感じました。また、ここまで素晴らしい合唱を創りあげた先輩方の絆の深さが、強く心に刻まれました。

今日をもって、卒業生の皆様はこの学び舎を巣立ち、それぞれ新しい道へと歩まれます。これからの道のりは、決して楽しいものばかりではなく、時には困難に直面することもあるかもしれません。しかし、この長房中学校で培った経験や、仲間と共に過ごした日々は、きっと皆様を支える大きな力となるはずです。

どうか自分自身を信じ、それぞれの目標や夢に向かって力強く歩んでいってください。私達も、先輩方が築いてくださったこの学校の伝統を受け継ぎ、より良い学校へとしていけるよう、精一杯努力して参ります。

最後に、卒業生の皆様のご活躍とご健康を心からお祈りし、送る言葉といたします。



「別れの言葉」

日差しが日一日とあたたかさを増し、春も本格的になってきました。今日、私たちはそれぞれの夢に向かって新たな道へと旅立とうとしています。少し大きめの制服にそでを通し、不安と期待を胸に長房中学校の門をくぐったあの日から、三年間はあっという間でした。毎日が新しいことばかりで目まぐるしい日々でしたが、一歩ずつ前に進んできました。

一年生のときの体育大会は、中学校に入学してから初めての大きな行事でした。まだお互いのことをよく知らなかったけれど、毎日の体育の授業や放課後練習の中で絆を深めることができました。

スキー教室では、初めてのことがたくさんあり緊張したことを今でも覚えています。それまで話したことのない人と一緒の班になり友だちになれたことがとても嬉しかったです。

最上級生となった三年の体育大会では学年全員で円陣を組み学年の団結を深めたことやウルトラソウルで大盛り上がりしたことが楽しい思い出として残っており、勝ち負けよりも大切なものがあることを教えてくれました。合唱コンクールでは、みんなの声が一つになり会場全体が一体になりとても感動しました。

修学旅行では、班のみんなで勇気を出して外国人の方に話しかけたり、宿舎の足湯で一日の思い出を振り返ったりしました。また、夜にはイントロクイズやダンス、お坊さんの怪談で震え上がったりと賑やかな夜を過ごしたりと、三年間をともにした仲間と楽しい三日間をすごせました。

しかし、私たちの学校生活は楽しいことばかりではなく、本気で取り組んだ日々の中には、努力しても思うようにできず悔しかったことや、必死さのあまり友だちと衝突してしまい悲しかったことがありました。

そんなときに、クラスメイトがはげましてくれたり、応援してくれたりしたことは、どこか照れくさくも感じましたが、その言葉に何度も救われてきました。

ふり返ると、このような行事だけでなく、何気ない日々の一つ一つも大切な思い出です。学年があがり新しいクラスになると期待だけでなく不安もありました。けれど、毎日一緒に授業を受けたり、休み時間や給食の時間を過ごすうちに、あっという間に打ち解け不安のない楽しい学校生活になりました。おどけて友だちを笑わせたことや、給食のじゃんけんではしゃいだこと、放課後の居残り雑談したこと、辛いときには友だちに悩みをきいてもらい、たすけてもらったこと。毎日学校にきて交わす友だちとのおしゃべり、ふざけ合った休み時間、騒がしすぎるぐらいにぎやかな授業、数え切れないほどたくさん楽しい時間が日常にありました。

この先、ふとした瞬間に思い出すのは、みんなと笑い合った日常や、泥臭く頑張ったあの時間です。長房中学校での日々は、わたしたちにとって、かけがえのない宝物です。

中学校に入ると生活が大きく変わりました。小学校では授業が終わると直ぐに帰って遊ぶ毎日でしたが、中学に入ると部活動で遅くまで学校にいるようになりました。また、土日も部活に励みました。最初の頃は体力があまりなく、練習の疲れで毎日の授業についていくのが大変で、部活を休みたいと思うことが何度もありました。また、先輩たちが引退した後、自分たちが先輩たちのように後輩をまとめていけるのか不安な時もありました。そのような中で、先生方や家族の励ましを受け頑張ることができました。そして、何より頑張っている仲間たちのことを見ると前向きな気持ちで部活動に取り組むことができました。互いの努力を認め合い、大会などで良い結果が出たときは抱き合って喜びました。結果が悪く、落ち込んでいるときも、「まだやれる」、「もう一度頑張ろう」と声をかけ合い励まし合いました。そのような経験を通して、私たちは強い絆を築き、団結力を高めました。

委員会活動では、長房中学校の生活をより良くするために新しいことに挑戦し続けました。委員会に初めて入るときには仕事をうまくこなせるのか不安でしたが、先輩方に優しく教えてもらい、自分の仕事を必死で覚えました。また、後輩を持つことで責任感が強まり、自主的に仕事に取り組むようになりました。普段は別々のフロアで生活をしている学年と、同じ委員会のメンバーとして集まりとても親しく活動することができました。

他の学年と関わるとなると緊張することもありましたが、相手の話にお互いに興味を持ち、同級生との会話とはまた違う、楽しい時間を過ごせました。

私たちはこの3年間、長房中学校で大きく成長しました。その成長は自分一人では出来たものではなく、入学したあの日から共に過ごした学年の仲間や先生方、卒業した先輩方、そしてここにいる1、2年生の皆さんとのかかわりの中でできたものです。

3年間という限られた時間でしたが、私たちが得たものは、かけがえのない、とても輝いたものになりました。それは、まるで、雨上がりの空に美しく輝く虹のように。

私たちがここにかけた虹は消えてしましますが、これから進むそれぞれの道に、みんなの見る未来に、また、虹がかかることを願っています。

合唱「虹」

私たちが今日まで、こうして成長することができたのは、先生方の支えがあったからです。部活や進路でうまくいかないときや、友人関係で困っているときには、親身になって相談に乗ってください、私たちが楽しく学校生活を送れるよう、いつも温かく見守ってくださいました。時には厳しい言葉で未熟な私たちを正しい道へ導いてくださいました。そして、目標を成し遂げたときには一緒に喜んでくださいました。私たちは、そんな優しく思いやりにあふれた先生方に出会えて幸せです。先生方から学んだことを胸に、それぞれが決めた進路で精一杯胸を張って生きていきます。本当にありがとうございました。

また、地域の方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは、地域の方々から温かく見守ってくださったからこそ、安心して学校生活を送る

ことができました。登下校の見守りや地域行事での支えは、私たちにとって大きな励ましとなりました。落ち込んでいるときでも、地域の方々と交わす朝のあいさつに、何度も元気をもらいました。これからは地域の一員として、少しでも恩返しができるよう努力していきます。

最後に、お母さん、お父さん。お母さんとお父さんには、どんなに感謝してもしきれません。思うように結果が出ず悩んでいたときには、「大丈夫、できるよ」といつも前向きな言葉をかけてくれました。仕事で忙しいはずなのに、毎日当たり前のようにご飯を作り、洗濯をし、塾や習い事の送り迎えもして、私たちを支えてくれました。その支えがあったからこそ、充実した楽しい三年間を過ごすことができました。これからもまだ頼ることがあると思いますが、親孝行をして、立派な大人になります。また、家族のみんなにも感謝の気持ちでいっぱいです。いつもそばで支えてくれて、本当にありがとう。何気ない会話や一緒に過ごした時間が、私たちにとって大きな力になりました。大好きです。本当にありがとう。

通い慣れたこの長房中学校を去る日が、ついにやってきました。当たり前のように毎日「おはよう」と言い合えた毎日が、どれほど特別で、かけがえのないものだったのか。今日、この場に立って、改めて実感しています。

三年前の入学式の日、慣れない場所で不安でしたが、友達が優しく声をかけてくれたことを今でも覚えています。体育大会、合唱コンクール、スキー教室、鎌倉校外学習、それから修学旅行。どの行事もみんなと一緒にだったからこそ最高に楽しかったです。また、何気ない毎日の中にも忘れられない思い出が沢山あります。分からない問題を最後まで根気強く教えてくれたこと、本当に嬉しかったです。手伝ってくれてありがとう。憂鬱であった時期もありました。でも、いつの間にかみんなに会うことが学校に来る一番の理由になっていました。受験のとき、思うようにいかず、プレッシャーに押しつぶされそうになる日もありました。それでも、「大丈夫」「きっとできるよ」「一緒に頑張ろう」と声をかけてくれる仲間がいました。楽しい時だけではなく、悲しい時、悔しいときには、慰め合い、励まし合いながら、私たちは前を向き進み続けることができました。言葉を交わすその時間が、私たちに勇気をくれて、ひとりでは越えられないと思っていた大きな壁も、仲間と一緒にだからこそ乗り越えることができました。

もう、みんなで活動することがないと思うと、とてもさみしいです。私たちはどの学年よりもパワーがありました。みんなの笑顔は、周りの人まで笑顔にする力があります。だから、どんなときもその笑顔を忘れないで。

(だから、どんなときも、その笑顔を忘れずにいましょう。)

今日から、私達はそれぞれの道へと進みます。環境が変わり、ときには孤独を感じるかもしれません。もし、立ち止まりそうになったときは、ここにいる仲間がどこかで精一杯頑張っていることを思い出し進み続けます。新たな夢、大きな希望を持って。

合唱「旅立ちの日に」

